

つくば常民大学11月（第38回）

講師：小村純江氏（日本常民文化研究所特別研究員）
題目：「平将門伝説と妙見・北斗七星信仰一旧・下総国を事例に」
日時：2024年11月21日（木）午後1時～3時半
場所：つくば市二の宮交流センター
※参加自由・要資料代

平将門（903?～940）は平安中期、西の藤原純友と時を同じくし朝廷に対し反乱を起こすが（「承平天慶の乱」）、最終的には追討され断罪された。律令体制の衰退と武士の勃興、時代の動きがその背景にはあるが、人々はその悲劇性に共感をおぼえ、菅原道真・崇徳上皇とともに日本3大怨霊の一人として、畏敬の念をもって語り継いできた。没後千年以上経た今日でも「東の将門、西の純友」と根強い人気を持つ武将であり、日本全国には数々の将門伝説がさまざまな形で残り、多くは北斗七星に由来する七の数に関係して語られている（小村『妙見信仰の民俗学的研究 一日本の展開と現代社会一』2020）。

現在の茨城県は将門が活躍した旧下総国の一部であり、将門伝説が多く伝わる地でもある。今回は、将門と妙見信仰の関係を以下の構成で考えてみたい。

- i 妙見信仰の概要
- ii 平将門
- iii 将門と妙見の関わり
- iv 茨城県に属する旧下総国の妙見と関わりある将門の軌跡 まとめ



左：坂東市・総合文化ホール 平将門像

右：守谷市・海禅寺 将門公供養塔と七騎塚（将門の影武者）